

# レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 第1回交流会 活動報告書

日時：2018年1月20日 13:30～15:45

場所：京都府立医科大学基礎医学舎 第1講義室

内容：医師の講話とグループワーク

参加者：41人

レビー小体型認知症サポートネットワーク（DLBSN）京都は、平成29年11月にスタート研修会を行い、今回第1回の交流会を開催いたしました。DLBSN 京都は、神経内科医と精神科医、あるいは大学病院勤務医と開業医、看護職、福祉職、介護職等からなるケア専門職が協力し合って運営しています。今年は、年4回（1月、4月、7月、10月）開催する予定です。

第1回交流会では、顧問医である水野先生のレクチャーと神経内科医と精神科医、ケア専門職と参加者とのグループワークを行いました。以下にその内容（一部）を報告いたします。

## ➤ レクチャー「レビー小体型認知症」の診断・治療

講師：京都府立医科大学大学院・医学研究科神経内科学 水野医師

今回は、第1回目ということで、基本的な話をされました。レビー小体型認知症の基礎知識として症状や診断基準、介護の基本についてです。

特に、幻視や睡眠障害、パーキンソンニズム、抑うつ症状、自律神経症状について取り上げて、具体的にどのような症状が起こるのか説明され、介護の基本としては、薬との付き合い方として、薬の過敏性に注意する必要があること、経過に沿って適切な介護をするために、ご本人をよく観察し、その症状に合わせていく必要があること、転倒予防として室内環境の見直しや後ろから声をかけない、幻視・見間違いへの対応として、①室内環境を見直す（壁に洋服をかけない、壁紙はシンプルな模様にする、蛍光灯を白熱灯に変える）②はぐらかしたり、ごまかしたりはせず、ご本人にとっては見えている現実を理解すること、妄想への対応として、言葉ではなく、優しく手を握ったり、背中をトントンするなど、起立性低血圧や体温調整に注意することなどなど、説明がありました。

## ➤ グループワーク

4グループにわかれ、それぞれに医師やケア専門職が入りました。

レビー小体型認知症の症状と日常生活への影響について当事者から語られ、それらに対して薬や介護の工夫に関することを中心にやりとりが行われていました。

## ➤ 参加者の声

家族：自分だけでないことに安心した ・わかってくれる人たちがいることがわかった ・聞いてもらえてよかった  
専門職：家族の生の声をきけてよかった ・個別性の大きいことがわかった

## ➤ Q&A … 参加費の使途 ➡ 開催費用の援助がないことから会場費や必要な運営費にしている